高等部道徳科学習指導案 『通勤寮での生活』

**１　主題名**　働くことの意味　C-(13)　勤労

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・働くことの意味

・自立した生活を送るために必要な力や働くことの意味を知り、周囲の支援を受けながら少しずつ身に付けようとする態度を育てる。

・「大人の自分」について話し合い、なりたい自分や、働く自分を思い描き、将来就きたい職業やその理由について、考えをまとめることできる。

（2）教材　　通勤寮での生活　（P６４-６７）

**３ 主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| C　主として集団や社会との関わりに関すること　（１３）　勤労  勤労の尊さや意義を理解し,将来の生き方について考えを深め,勤労を通じて社会に貢献すること。 |

1. ねらいとする道徳的価値について【価値観】

特別支援学校高等部では、働くために必要なスキルや態度を学ぶ作業学習が設定されているため、働く自分に対してのイメージはもちやすいが、実際に働きながら生活する自分に関しては想像することが難しい。本教材「通勤寮での生活」において、生徒同士の対話的な学習の中で、本質的な意味での自立や、周囲の支援を受けながら無理せず自分のペースで必要な力を身に付けることの大切さに気付き、将来のなりたい自分を実現しようとする意欲と態度を育みたい。

（２）生徒の実態について【生徒観】

企業就労を目指し、キャリア教育が一定程度積み重ねられている1クラス10名程度の生徒を対象とする。

自分の気持ちなどを簡単な言葉で書き表すことが苦手な生徒に対しては、話し言葉での表現を代筆するなどの配慮を行う。

日常の学校生活においては、作業学習やキャリア教育の中で、働くことの意義やスキルを学ぶと共に、周囲の支援を受けながら自分でできることを広げられるよう真摯に学ぶ姿勢を指導していく。

（３）教材について【教材観】

特別支援学校の高等部を卒業し、企業就労した主人公の修さんが、自宅を離れ通勤寮で生活する中で、気付いたことや学んだことを、生徒たちに先輩の立場で話をするという話が紹介されている。

通勤寮での一日について、具体的に起床から就寝までの一日の流れが記載されておりイメージしやすい。この話を読んで、主人公の修さんが働き始めた頃と、働き始めて数年がたった時の気持ちの変化を推測する学習を行ってから、自分自身に置き換えて「大人の自分」について考え、将来就きたい仕事や理由をまとめることができる教材となっている。キャリア教育と横断的な学習として扱うことができる。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画　１時間（本時）　事前、事後学習はキャリア教育の授業で扱う

（2）準備　　　PC、モニター、スライド（通勤寮の一日（例））、キーワードカード、まとめプリント

グループ毎（発表用ミニホワイトボード×２、ホワイトボードマーカー、ホワイトボード消し）

（3）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点  ☆評価の観点 |
| 導  入 |  | １　大人になった自分を想像する  ○大人とはどんな人ですか？  また、どんな大人になりたいですか？  ・自分が思い描く大人像を言葉に表す。 | ・働いている  ・なんでもできる。  ・お金をもっている。  ・ずるい。  ・分からない。  ・一人暮らしをしている。  ・かっこいい。 | ・３～４人のグループで着席  ・各グループで発表者と記録者を決める。あるいは指名する。  ・身近な大人や先輩、憧れの人等の例を挙げ、挙手で発言を促す。  ・ネガティブなイメージも否定せず受け止める。  ・生徒の発言を板書する。  ☆イメージや思いを言葉にすることができる。  （思・判・表） |
| 展  開 |  | 2　教材　　通勤寮での生活を読み、グループで話し合う。  ・範読する。  ・事前にキャリア教育の中で学習した、通勤寮での生活を確認する。  【主人公の心情を想像し自分に置き換えて考える】  〇修さんは通勤寮に入ってすぐの頃、どんな気持ちになりましたか？  ・自分だったらどう思うか、自分に置き換えて考え、グループで話し合う。  ・発表用ボードを見ながら発表する。  ・本文６６ページの①欄に自分の考えや友人の発表を記入する。  ○修さんが通勤寮の人たちに支えられていたと感じたことは何ですか？  ・本文P６４のキーワードを探し□で囲む。  【自分に置き換えて考える】  ○他にも通勤寮で生活する上で、自分でやらなければいけないことは何でしょう。  ・自分だったら助けてもらいたいことは何か考える。  【主人公の心情を想像し自分に置き換えて考える】  〇社会で働き始めて数年たった時、修さんは自分の事をどのように変わったと考えていますか？  ・グループで話し合う。  ・発表用ボードを見ながら発表する。  ・本文P６６の②欄に自分の考えやグループで出た意見を記入する | 課題　なぜ修さんは通勤寮での生活が「大人へのステップ」だったと思えたのかを考えよう。  ・自由になったのかな。  ・できると思っていたのに、できないことが多くて自信がなくなった。  ・いろいろルールがあって面倒。  ・おいしい食事。  ・お金の管理。  ・相談。  ・注意。  ・失敗もフォロー。  ・布団たたみ  ・食器洗い  ・洗濯  ・掃除  ・働いたお金で生活するのは気持ちがよい。  ・自信がついた。  ・前より大人になった。  ・できることが増えた。 | ・教科書のP６４を開く。  ・読む場所を見失った生徒には隣の生徒と助け合うよう言葉を掛ける。  ・本文P６５通勤寮の一日（例）をモニターに写し、確認する。一部穴埋めにして発言を促す。  グループワーク  ・言葉にすることが難しい生徒には、机間指導により本文のキーワードを指し示しヒントを与える。  ・一度声に出して書き取らせる。  ・○時○分までと発表までの時間を示す。  ・グループで話し合ったことを発表用ボードに記入し、記入したボードを黒板に貼るよう伝える。  ・発表ボードを参考にP６６①欄に記入するよう伝える。  ☆自分の考えを書くことができた（知・技）  ・P64、8行目からに注目するようヒントを与える。  ・挙手を促す。  ・生徒の発言に合わせキーワードカードを黒板に貼る。  ・モニターを見ながら、職場で働く以外の時間にしていることを一緒に確認し、キーワードカードを黒板に貼る。  ・すぐには身に付けられないことや、働きながら身に付けることの大変さに気付くよう言葉を掛ける。  グループワーク  ・発表までの時間を示す。  ・発表用ボードに記入し、「働いてすぐの頃の心情」を記したボードの下に貼り、心情の変化が視覚的にわかるよう板書を計画する。  ・発表ボードを参考にP６６②欄に記入するよう伝える。  ☆主人公の心情を、自分に置き換えて考え、グループで話し合い発表できたか。  （知・技）  ☆積極的に自分の意見を相手に伝えられていたか、また相手の意見を共感しながら聞いたか。  （態度） |
| 終  末 |  | ３　まとめプリントを作成する。  ○大人になった「○○な自分」になるために、今「一人でできること」と「これから身に付けること」をまとめましょう。  ・「これから身に付けること」の中から一つ選び、「大人へのステップ①」としてすぐに日常生活の中で実行したい取り組みを発表する。  ４　教師の説話を聞く | 課題　大人へのステップで今できることは何か。将来のなりたい自分をイメージし言葉でまとめる  ・「一人暮らしをしている自分」  ・「サッカーも仕事も頑張る自分」  ・週末は自分で洗濯します。  ・毎日ご飯を炊きます。  ・小遣い帳をつけようと思います。 | ・記入終了時間を指示する  ・文章にすることが難しい生徒には、机間指導により板書のキーワードを指し示しヒントを与える。  ・一度声に出して書き取らせる。  ・掲示できるよう丁寧な字で記入する  ・プリントを回収する。  ・次時のキャリア教育の授業で活用することを伝える。 |

（4）終末での教師の説話例

卒業生の話や教師自身の体験として、親元を離れて暮らし始めて分かったことや、苦労したことなどを話す。就職したばかりの頃は、初めてのことがたくさんあり緊張している毎日で、その上、身の回りの家事もこなさなければいけないのはとても大変だったこと。誰も注意してくれないので、夜更かしをしたり、好きなものだけを食べたりしてバランスの良い食事が取れず、体調を崩すこともあったことなど、苦労や失敗したことを伝えつつ、周囲の人に助けを求めながらどのように改善していったのかも交えて伝える。

また、家族と暮らしていた時には、当たり前のように両親がやってくれていたことに気が付き、感謝の気持ちをもったことなども伝える。

卒業したから、就職したから、18歳になったから、すぐに大人になるわけではない。できることを一つずつ広げていくことで働くことの意味や、自立した大人のイメージを伝えられると良い。